

留学研究生活あれこれ ～トランプ政権でアメリカ留学が変わる??～

平野有沙[✉]

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

このたび、光栄なことに近畿大学医学部解剖学教室の池上啓介博士からバトンを渡されました、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構（WPI-IIS）の平野有沙です。池上くんのエッセイが若手研究者として、ということだったので私はもっと若手の研究者のためになる小話（留学編）についてお話したいと思います。正直言って、最近の留学事情は日本人研究者にとっては嬉しくないニュースが多いです。まずは行く研究室を決めて、それから海外学振書いて！と期待に胸を膨らましているときは見落としがちなのがたくさんあります。私も留学準備中は、ビザがとれないかもなんてことは考えてもいませんでしたが相当のきだったと今になって思います。これからアメリカに行きたいという人は（ヨーロッパは知りません…）参考してみてください。

7月某日、サンフランシスコでの留学時代にお世話になったポストドクの方がビザの更新ができずに急遽帰国せざるを得なくなったというニュースが届いた。詳細は不明だが、書類の不備ではなく就労ビザ更新の許可が下りなかったらしい。そもそも毎年20万以上の応募が殺到する就労ビザに枠はまったく足りていない。それでも専門職である研究者に対しては制限を設けないということだったはずだが、その特権が失われたのだろうか？現にトランプ大統領政権になってから、専門職用に就労ビザ申請を優先的に審査するシステムがなくなった（4000ドルもかかるけど）ようにビザの取得環境は厳しくなっている。そうなると、5年期限のJ（国際交流）ビザで研究をはじめてJビザが終了したあとはH（就労）ビザに切り替えてのんびりアメリカポストドク生活を満喫しよう！というわけにはいかなくなる。Jビザが切れる5年以内に帰るか、5年の間にグリーンカード（永住権）取得を目指すことも視野に入れなくてはならない。ちなみに、グリーンカードも発行許可が

下りたにも拘らず、文字通り緑のカードが1年以上届かないという話を聞いている。永住権がさらに取得しにくくなったのか、ただ単に行政が混乱しているのかはわからないが、とにかくすんなりいかないという話をちらちら聞く。

国に滞在することにも神経をとがらせている必要があるのに、それに加えて大学にも居辛い。少なくとも私のいた大学では5年のポストドレーニングが終わるとresearch associateかspecialistにならないといけませんが、かなりの業績や特殊技能が必要になったらしい。採用時のオリエンテーションで「ここにずっといれると思わないでください」と注意喚起（？）があるくらいである。これも一例だが、日本で学位取得後に日本の研究室で助教をしていた知り合いがアメリカに留学しようとしたところ、研究所の人事からNGを出された。研究室のボスからはOKが出て日本から奨学金もとっていたにも拘らず、学位取得後5年以上経過しているためポストドクとしては雇えず、その上位のポジションにつく抜け道も使えなかったからだそうだ。学位をとってからそのまま特任助教やポストドクとして研究室に残ってそのうち海外に、と考える人も多いと思うが留学は早い方が良い。ちなみに留学助成をしてくれる財団や日本学術振興会は留学手続きに関して金銭面でしかサポートしてくれず、海外留学に必要な情報は完全に個人が収集するしかないし、ボスが雇用の仕組みをわかっていないことも多い。要は、日本人だからといってビザが必ず下りるわけではないこと。ボスからメールでOKをもらった時点で留学が保証されたわけではないこと。留学するなら若ければ若い方が良いということ。英語力を上げるために日本人とつるむなという話はあるけど、ビザとか税金の情報を得るためにも自分と同じ境遇の日本人ともつるんでいた方が身のためであるということ。留学時代

✉hirano.arisa.gt@u.tsukuba.ac.jp

に日本人に会うとかなりの頻度でこれからビザをどうするかという話になったなあと思出す。

ビザの更新に失敗して居座れば不法滞在となる*。この「不法滞在」という響きは日本人には人生が終わった気がするほど重いのが、中南米からの違法移民は本当に多い。知り合いの家のハウスキーパーもそうだったが、正規の職にはつけないのでアメリカの中では賃金は安く、戻ってこれられないので自国に帰ることはできない、故郷にいる家族が会い（サポート）に来ることもできない。そんな彼女が、妊娠してしまった、と言って悲しさのあまり泣いていたらしい。そんな複雑な事情があるならもっと気をつけなよという突っ込みは置いておいて、本当にいろんなものを犠牲にしてもアメリカに来るんだなあと思感した。このような不法滞在者の取り締まりはまだしも、研究者の就労ビザの審査を厳しくしてもアメリカ人の雇用を守ることはできないだろう。そもそもカリフォルニアではアメリカ人のポストクを探すのが難しいくらい外国人ポストクが多いが、アメリカ人だと賃金が高いからポストが雇いたくないというわけではない。いないのである。例え研究室のポストに任期更新されなくても、米国のPhDがあれば企業就職もすぐできるのでアメリカの失業率の高さの一端を担っているわけではない。にも拘らず外国人研究者を排除するような風潮が続けばアメリカのサイエンスもお金不足と人手不足で縮小していってしまうかもしれないと懸念せざるを得ない。か、それよりトランプ政権が失脚する方が先か、、今後もどうなっていくか気になるところである（日本の将来も）。

*正確にはビザは入国許可証で滞在許可証はビザの他にありますが、ビザの取得に必要なものなのでほぼ同義とし、そのほかにもエッセイをわかりやすくするため詳細な説明は省いています。また、ほとんどの情報は周りの知り合いから伝え聞いたものなのでうろ覚えでかつどの大学にも当てはまるものではありません。これから留学する方は、くれぐれも自分で正確な情報の収集に努めてくださいね。